

巻頭言 WBCの風に乗って

木田 哲生

Kida Tetsuo

(滋賀医科大学医学部附属病院)



本原稿の執筆にとりかかったのは、熱くて爽やかな風が日本を吹きぬけた2023年3月です。近年、日本のアスリート達が世界で活躍する場面は多く報道され、興奮しながら観戦しております。その中でも、3月に開催された第5回 World Baseball Classic では、「SAMURAI JAPAN」が、特に大きな感動を多くの国民に与えてくれました。世界20か国が参加した大会でしたが、国内での予選と準々決勝まで圧勝負けなしでアメリカでの準決勝に臨んだ侍は、劇的な逆転サヨナラ勝ちで決勝に勝ち進み、翌日の決勝でも見事な逆転、感動的なゲームセットを届けてくれました。決勝戦が行われた3月22日は勤務日であり、会議を終えて移動途中、患者待合室に設置されたテレビの放映に足を止めて優勝の瞬間を共有することができました。患者さん数名と立ち見の病院スタッフとで手を叩いて喜んでしまいました。ここにも小さな歓喜の瞬間を与えてくれました（この原稿をお読みいただいた方は、思い出して感動されていることでしょう）。

メンバー全員が、皆が認める選ばれたプロ野球選手であり、素晴らしい才能と技術を有することは知っていますが、お互いを敬う姿、一体感で偉業を達成してくれました。プレー以外にも、準備段階からのチームワーク形成、ベンチ内の映像から伝わる一体感、試合後のコメントすべてに感動し、皆が今大会の主人公であったと思っています。

監督・コーチスタッフ・選手が、それぞれの役割を果たしながら1つになって勝ち進んでいく姿に2019年ラグビーWorld Cup ベスト8の「Brave Blossoms」、2022年サッカーWorld Cup ベスト8の「SAMURAI BLUE」の感動も蘇り、幾重にも清々しい感動を授かった一人です。

この3月、新興感染症の長いトンネルの出口の灯りが見えてきた頃でもあり、筆者が勤務する医療機関でも、感染対策を維持しながらの診療の通常化が進んでいます。また、社会生活の取戻しと共に、この3年間で進んだDXを更に活用、発展させて将来の社会の変革が図られています。今後は、バーチャルエンジニアリングを駆使したテクノロジー分野も拡がるということです。イノベーションによる利便性の恩恵を感じる反面で、DXが人のつながりを疎（そ）にしてしまうことが危惧され、コミュニティを維持する活動も進められています。時代や新技術の進歩と共にDXが進んでも、社会性や人の様々な活動における能動性は維持したいものです。

2023年11月16日から18日の3日間、大阪駅直結のグランフロント大阪、ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター及び隣接する会場にて、第63回日本核医学会学術総会（会長 近畿大学 細野真先生）と第43回日本核医学技術学会総会学術大会を合同で開催します。今大会は、第7回ICRP国際シンポジウム2023が期を近くして開催されることから、その一部の企画の他、福島イノベーション・コースト構想に関する企画や関連学会とのコラボレーション企画を準備しております。

本大会の合同テーマは「核医学の学びと創造—皆が主人公！」です。

核医学診療に関する教育企画にて情報を収集、研究発表やシンポジウムにて意見交換を通じ、今後の核医学を通じた診断治療の発展に貢献いただけること、ご参加の先生方がそれぞれの場面での主人公となっていただくことを期待してのテーマです。

WBCのすべての選手関係者が主人公であったと言われたように、ご参加の皆さまが、核医学の創造における各場面の主人公になっていただくことを望み、多くの先生方のご参加をお待ちしております。